

編集後記

▼大変お待たせ致しました。「現代宗教研究」第四十五号をお届けします。

▼ここ数年、別冊としている「法華経・日蓮聖人・日蓮教団論研究セミナー」、平成二十一年度より「教化学研究」として別冊化した「教化学研究発表大会」に続き、本年度は、「中央教化研究会議」の内容を単刊行することといたしました。

▼これに伴い、「現代宗教研究」本誌は、「研究ノート」と「研究・調査プロジェクト報告」が主体となります。

▼研究ノートは、例年通り、主として研究員諸師のそれぞれの研究成果を収録しております。現宗研内の研究調査分担によるもの、研究員個人の研究課題にのっとったもの、様々ですが、主に現宗研の「研究例会」に於いて発表されたものです。

▼研究・調査プロジェクト報告は、他教団の宗門運動に関わるもの、原子力問題に関するもの、寺院の危機管理に関するものなど、時宜に合ったものとなっているかと思えます。御一読をお願いいたします。

▼上述の通り、教化学研究発表大会の成果は、本誌には収録せず、別冊として刊行いたします。同大会の内容は、第五回まで「教化学論集」として刊行され、第六回から第九回までは本誌に併収しておりましたが、第十回（平成二十一年度）より、「教化学研究」の名で再び別冊化しました。

▼伊藤立教顧問（前主任）、早坂鳳城元主任が相次いで遷化されました。それぞれ、在任当時の所長に追悼文をお願いいたしました。謹んで両師の増道損生をお祈り申し上げます。

▼本誌の編集中、東日本大震災が発生いたしました。犠牲となり亡くなられた方々の御冥福、行方不明となっている方々の一日も早い発見を心より御祈念申し上げます。また、被災された皆様、避難生活を送られている方々に、衷心よりお見舞いを申し上げます。その影響もあって、と申しますと言い訳になりますが、本誌の刊行が予定より大幅に遅れましたことをお詫び申し上げます。

▼また、平成二十二年六月に開催した「教化センター連絡会議」に於ける野村清治氏（名古屋自死遺族の会「リ

メンバー」代表幹事)の講演「自死遺族から見た自死問題について」を収録の予定で御座いましたが、諸般の事情により次号に掲載することと致します。(T・S生)